

平成 16 年 7 月 27 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

カザフスタン共和国 北カスピ海沖合鉦区のカイラン構造で原油発見に成功

国際石油開発株式会社（インペックス）は、同社子会社インペックス北カスピ海石油㈱を通じて探鉱・開発事業を推進しているカザフスタン共和国北カスピ海沖合鉦区のカイラン構造において、試掘井「カイラン-1号」(Kairan-1)により深度 3,126m で油層を発見し、今般、実施した産出テストにより、日産約 4,100 バレルの原油の産出を確認した。今後、本発見構造の評価作業として、産出データの分析及び、追加スタディを実施する予定。

カイラン構造における出油により、北カスピ海沖合鉦区内に認められたカシャガン構造、カラムカス構造、アクトテ構造、カシャガンサウスウエスト構造およびカイラン構造の 5 構造に掘削された 6 坑（カシャガン構造に 2 坑）全ての試掘井が出油に成功し、5 構造全てにおいて原油の胚胎を確認するに至っている。

また、カシャガン構造は、2004 年 2 月にカザフスタン共和国政府より承認された開発計画に基づき、2008 年に日産 7 万 5 千バレルで生産を開始し、2010 年には日産 45 万バレル達成を目標とし開発中である。その後更に、段階的に日産 120 万バレルまで引き上げることが計画されている。なお、同油田は過去 30 年間に発見された油田の中で最大の油田であり、原油に随伴して生産されるガスの圧入による増産効果により、累計生産量は 130 億バレルとなることが期待されている。

本プロジェクトは、当社を含む日米欧の国際コンソーシアムがカザフスタン共和国と締結した生産分与契約にもとづき推進している探鉱・開発事業である。国際コンソーシアムは、当社(8.33%)の他、伊国 Agip（参加権益比率 16.67%）をオペレーターとし、英国 British Gas（16.67%）、米国 ExxonMobil（16.67%）、英蘭 Shell（16.67%）、仏国 Total（16.67%）、米国 ConocoPhillips（8.33%）により構成されている。

※) 補足説明

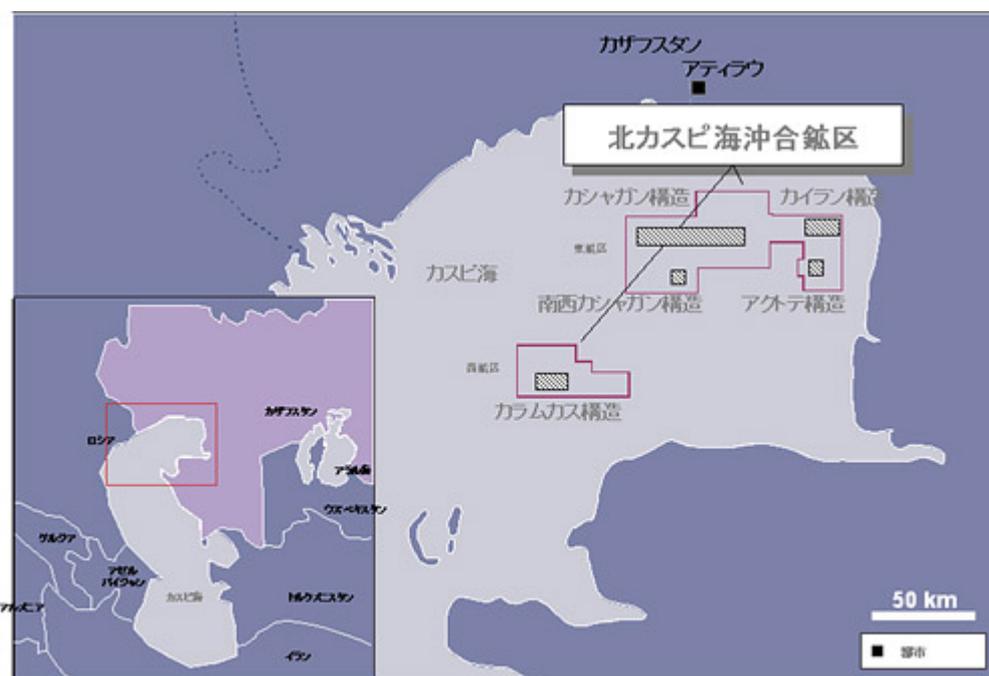
1.北カスピ海沖合鉦区は、東部、西部の 2 つのブロックよりなり、カイラン構造は、カシャガン油田の東方約 45km、カザフスタン共和国アティラウから南東約 100km のカスピ海域

に位置する水深約 2m の東部ブロックにある。

2.試掘井「カイラン-1号」(Kairan-1)は、環境に配慮し、口径をしばった 64 分の 32 インチチョークで日産約 4,100 バレルの原油産出を確認した。なお、カイラン構造の埋蔵量は、今後の評価作業の結果を待つ必要がある。

3.国際石油開発(株)は、平成 10 年 9 月に本鉱区の権益の 1/14 をカザフスタンの国営石油会社 KCS (Kazakhstan Caspian Shelf) 社から弊社の子会社であるインペックス北カスピ海石油(株)を通じて取得し、欧米コンソーシアムの一員となり、その後、BP 社および Statoil 社との間で 2001 年 9 月に各々締結された権益譲渡協定に基づき、鉱区権益を追加取得している。

4.インペックス北カスピ海石油(株)は、1998 年 8 月に設立され、石油公団の投融資を受けるとともに、石油資源開発(株)および三菱商事(株)からの出資を受けている。(2004 年 6 月末時点の資本金は、439 億 8,000 万円、出資比率は、石油公団 : 50%、インペックス : 45%、石油資源開発および三菱商事 : 各 2.5%)



カザフスタン共和国北カスピ海沖合鉱区図